

八木ヶ鼻と毛石山 山行報告

(山城) 新潟県下田川内山塊 (コース) 八木ヶ鼻と毛石山(793m)

(日時) 5月23日～24日 (天候) 晴れ

(参加者) CL 柘植、SL 竹下、澤田淳(特命)、大木(食当)、斉藤一(記録)、元会員深谷

(山行タイム) 23日千葉駅6:10⇒番屋山登山口11:30⇒八木ヶ鼻⇒チャレンジランド杉川(泊)16:30

24日毛石山登山口7:00～山頂11:30～登山口13:30～帰葉

(山行報告)

早朝に集合し、眠い眼に今日の収穫の期待を浮かべ、一路関越道を北へと向かう。中之島見附 IC から東へ、守門岳北側に位置する番屋山は新潟三条と会津只見を結ぶ八十里越を足元に置く位置にある。守門川脇を遡り駐車場所となる吉ヶ平山荘手前5kmの地点で林道を塞ぐ柵が立ちはだかり侵入できない。自転車・バイクはこれを抜け、奥へと更に進む。自所の山を守るため山菜の時期にはこれを設置する所が増えているようだ。ここは広い駐車場になっており、隣の車にはザックいっぱい山菜を押し込んでいる。この周辺でも期待が出来そうなので脇の林道へと歩き出したら、ミツバから始まりウド、タラの芽、コゴミ等奥に行かずとも採れ始めた。夢中になり皆で歩き回る。だが CL が好物のコシアブラが何故か採れず移動する。道に戻ると旧宿場の入口に位置する八木ヶ鼻の岩場が立ちはだかっている。この堅牢で垂直の岩場はハヤブサの生息地として有名らしい。この山、番屋山の登頂を諦めた我々は兎に角、イヤ、なんでもいいから短時間で登れる物件を探していたので即これを征服したく行動し始めたのである。左方の神社より高度を上げ始め、山つつじが咲く272m山頂に着いた。



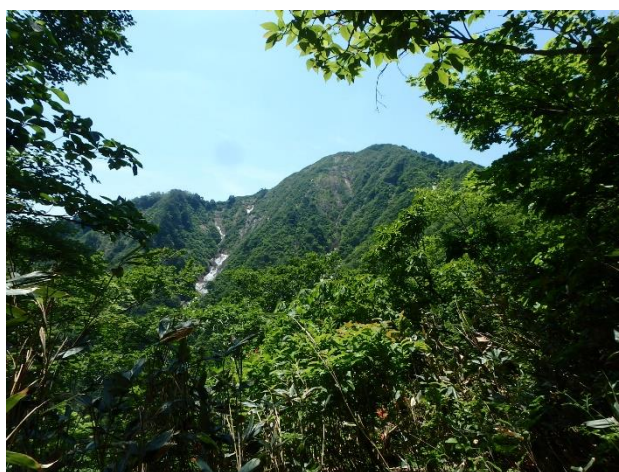
ここ、守門岳・栗ヶ岳と意外に眺めが良いのです。この短い登山には多数の人とすれ違うので話をしてみるとヒメサユリの花祭りでこの日が初日、多くの人が近くの会場に集まっておりました。見ごたえはかなりのモノだったようです。さて、食材を買いながら一時間の道のりをチャレンジランド杉川に向かい、風呂浴びて夕餉の天ぷらパーティーに突入し、揚げたら食べる、作ればパクツク立食いの宴で腹一杯になった夜でした。このチャレンジランドは1500円で寝具、風呂、機材が豊富なキッチンが使える、掃除が行き届いたロッジに宿泊出来、毎年訪れるこの地区の定宿と成っています。



翌、24日は宿泊場所より10分少々で毛石山登山口に着く。ここでの出迎えはキツツキの木を叩く音、熊に注意の看板。さて、川を交差する水道橋を渡り蓋をされた水道道を歩き出す。杉林を歩き、沢を渡り高度を上げながら感じたのは、「この山歩き難い」。足を置く道はとても狭く谷へ傾斜しており、崩落と倒木、良い高さで張り出した木に何遍も頭を打って辛い。似たような高度差の稜線で息はアガらないが、長い登山道が続き距離のワリに時間が掛かる。日が高くなるにつれ、気温が高くなるが二箇所の水場で安堵する。橋立山の神で休憩すれば爽やかな風が谷を渡ってくる。残雪の登山道を進み山頂が見えてきた。此れより急登の岩場を登って794mの山頂に到着だ。そんなに高くない山だが谷が深く深山の感が有る。登山道の難儀で後々でも印象に残るだろう。この、人があまり立ち入らない登山道は思いのほか道筋に多くの山菜が合った事も伝えねばならない。バリエーションルートを選べば宝庫がまだまだ有るはずだ。さて下山だが、道の悪さに気を張りながら、暑くなり始めた尾根を沢まで下れば水道橋まであと僅か。日帰り湯の村松さくらんど温泉で汗を流し帰葉となる。



菅名岳方面をバックに谷の源頭を登る



毛石山の山頂が見えてくる



山頂直下の急登を頑張る



毛石山の山頂(結構グツタリです)